

27

③



林

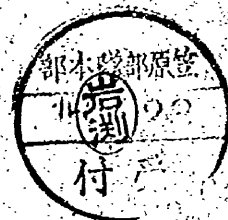


2

晋南反撃作战教訓

秋

昭和十五年七月二十日
第三十六師團司令部



1600

緒言

晉南反撃作戰ハ主トシテ敵七一軍ヲ對手トシ
防禦及嶮難ナル地形ニ於ケル陣地攻撃ヲ實施セル
モノシテ高平及春季晉南作戰ト異ナル特質ヲ
有ス

本冊ハ此ノ特質ニ基ツク特異ナルモノノミヲ掲記シテ
リ依テ高平及春季晉南作戰ノ教訓ト併用シ
之レガ活用ニ努メ以テ貴重ナル體験ヲシテ最モ効果
アリシムルヲ要ス

尚本冊記述ノ趣旨及之が取扱ニ関シテハ春季並日南
作戦ノ教訓ト同一ナル付キ注意スベシ

昭和十五年七月

舞傳男

1602

目次

- 一 敵ノ裝備素質戰法ニ関スル觀察並之ヨリ得タル
教訓
- 二 防禦ニ關スル教訓
- 三 彈藥ノ使用ニ關スル教訓
- 四 幹部及兵教育ノ參考資料
- 五 通信連絡ニ關スル觀察及教訓
- 六 行李輜重ニ關スル教訓
- 七 其ノ他

一 敵ノ裝備、素質、戦法ニ關スル觀察並之ヨリ得タル教訓
ノ七十二軍、八十八師ノ裝備ハ良好ニシテ、戦車砲連アリ

砲兵ハ測遠機ヲ有シ來嶺村東方高地ニ使用中ナルヲ
目撃ス。又曳光彈、照明彈ヲ使用シ相當敵ノ擲彈筒ヲ
有ス。尚山砲陣地ハ月湖泉、銅ノ嶺附近ニ在リテ其ノ射
彈ハ天井閣、天永嶺ヲ越エ射程九〇〇米ニ及バリ。素質
亦二十七軍等ニ比シ遙ニ優劣ナリ。

(藤)

二 兵一般ニ年少ニシテ意氣地無キモ督戦法適當ナリ。(空)
三 第七十二軍敵中央軍ノ精銳ニシテ我が飛行機ノ猛襲ヲ

受ケルモ勇敢ニ對空射撃ヲ實施セリ

六月十六、十七日東京附近ノ敵壘陣ニ對スル我ガ飛行隊ノ

爆撃ハ好烈ヲ極メタルモ敵守兵ハ重輕機關銃ヲ以テ勇敢ニ

對空射撃ヲ實施シ我ガ低空爆撃ニ際テ手ニ汗ヲ握リシマ

タリ

(山)

々工事又ハ地隙ニ依ル敵ハ頑強ニ抵抗シ陣地ヲ捨テ時ニ瓦解スルモ

那軍ノ通有性ナルモ十八師隊次第據點ヲ占領シ巧ナル抵抗

ヲ持續セリ

六月十日黃河村、高會村奪取時ニ於テ坑丁等ヲ占領シ

圯墻花園線ニテリ敵ハ執拗ナル抵抗ヲ繼續セリ又敵迫撃
 砲射程ハ二百五十米ヲ越シテ我ニ近キ山巒等ニ陣地ヲ占
 領シ陣地附近ノ高地ニハ必ズ一二名ノ觀測者アルヲ常トシテ
 之ヲ發見セリ西嶺附近ノ戰鬪ニ於テ晝間之ヲ發見シ判壓
 沈黙セシタルコトアリ
 又射撃ノ標是ヲナシテ陣地附近ニ高キ樺ヲ發見セシコト
 アリ
 敵陣地ハ頗ル堅固且巧妙ニ構築セシマリ特ニ上空ニ對シ敵
 砲的ニ濃密ナル防空施設ヲ伴ハリ

(藤)

陣地ノ要點ニハ二十種力至四十種ノ樹幹或ハ煉瓦ヲ用ヒテ
「ト」チカ」並掩蓋機、閃銃座ヲ構築シ山砲ノ全彈ニ對シ抗
堪力十分ニシテ巧ニ銃眼ニ偽裝シテ見ニ困難ナリ
又陣地ニ於ケル夜間射撃ノ設備ハ必ズ真施シテリ
陣地相互間及後方掩蔽部ト間ハ交通壕ヲ以テ連絡シ
テリ掩蔽部ハ概シ陣地ノ後方断崖ノ脚ヲ利用シテ巧ニ構
築シ特ニ上空ニ對シテハ絶對ニ遮蔽シテリ
而シテ我が飛行機ノ飛來ヲ知ルヤ步兵ハ此ノ掩蔽部ニ迅速
ニ入ルヲ以テ飛行機ヨリ「何々」附近ニ陣地アレ共敵兵ヲ見ズ

トノ報告ヲ受クルコトアルニ事實ハ若ク如何ノ守兵掩蔽部ニ逃
避シテ飛行機飛去ルヤ道ニ再ビ陣地ニ着テ例トスルヲ
以テ特ニ此點ニ注意スルヲ要ス

(山)

6
工事ハ真剣味ヲ以テ真實施シ且偽裝ニ勉メテアリ

我豫期スル陣地衝突セラル如ク近距離搜索ニ勉メ且敵
陣地發見ノ爲ニ不斷ニ監視ヲ行ヒ又ハ陣地ヲ利用シ能ハザラ
ズル如ク敵敵ニ度マテ突進スルヲ要ス

銃眼陣地森林林ノ陣地等ニ對シテ特種彈ノ價値ハ大ナリ
一三門ノ速射砲又ハ平射砲ヲ有スルヲ可トス

(西)

夕陣地、縦深配備ニシテ之ハ地形、閉原ニモ依ルベキモ概シテ小銃機関銃、迫撃砲等、同線ニシテ縦深アルガ如キ場合ニ連繫ナキ個々陣地ヲ配置シアルニ過ラズ之ニ對シテ攻撃ハ原則、敵アル所ニ從ヒ周到ナル準備、下ニ夜間ヲ利用セルガ有利ナランカ研究、餘地アリ

左右ノ連繫不充分ニテ且止圖心ニ乏シ即チ六月七日夜我々李子寨村、望城頭、陣地攻撃ニ際シ隙上左方面ヨリ下河村方向ニ近接セル敵ハ秋泉村附近ニ在ル敵ト連繫ヲ密ニシテ我側背ニ突進スルガ如キ行動ナク又我東坡附近、攻撃

ニ際シテ其ノ北方ニ在リシ敵ハ我ガ右側ヲ衝クガ如キ行爲
ナカリシハ其ノ例タルベシ

斯ノ如キ敵ニ對スル攻撃手ニ於テハ常ニ我ガ攻マシ方ヨリ讀
極的ニ企圖ヲ遂行スルノ益ニ有利ナルヲ痛感セリ(西)
9 我ヲ陣地至近距離ニ近接セシメ豫メ準備セル火器ノ威力ヲ
不意急襲的ニ發揮ス

西鳳頭原測松林高地ニ對スル第一大隊夜襲時ノ敵ハ之ヲ好
例ナリ又今日迄ニ於ケル戦法ハ迫撃手砲機関銃等ノ射
撃ニ始リ我ノ近接ニ伴ヒテ小銃射撃手ヲ爲スガ普通ナリ

是日取初狙撃等の小銃射撃ヲ行ヒ逐次機関銃迫撃砲
ノ不意急襲的射撃ヲナス戦法ヲ採ルコトモアリタリ
敵射撃等少キ場合ニ於テモ敵情ヲ確ルコトヲ前進スルハ
危険ナリ

(西)

10 堅固ニ施設セル陣地、前方ニ逐次小部隊ヲ配置シ我敵前
方部隊ニ對スル攻撃手間後方ニ主陣地、工事補強、彈藥、糧
秣ノ集積等ヲ實施シアルガ如シ

李寨村望城頭、主陣地ニ對スル北泥場村河頭附近、陣
地堅水村東西高地、陣地ニ對スル閭庄羅泉村附近、西

1611

鳳頭附近ノ陣地ニ對スル東坡附近ノ敵ハ之ガ適例ト見ル
ヲ得バシ

(四)

〃前送主陣地ノ前方遠次小部隊ヲ配置シアルガ如キ敵ノ
戦法ニ鑑ミ敵ノ前方部隊ハ寇メテ包圍迂回ニ依リ退
却ノ餘義ナキニ至ラシメ速ニ主陣地ニ迫ルヲ可トス(西)
〃敵ハ退却ニ際シ通常自動火器ヲ残置シテ收容ニ任ゼシ

〃且收容部隊撤退ノ時期ヲ正子以前ニ選定スルヲ例トセ
リ蓋シ收容ノ爲メ最小限ノ人員ヲ當テノ主力ノ爾後ノ企
圖遂行ヲ容易トシテ前收容部隊ヲ翌拂曉迄ニ次々抵

抗陣地ニ到着スルが如キ着意ニ依ルナランカ

(西)

敵ノ退却方式前述、如ク刑アリ而モ如何ニ堅固ナル陣

地ニ於テモ概ネ三百目ノ夜ハ退却スルヲ例トシタルヲ以テ我ハ敵

退却ノ公算最モ大ナル三百目ノ薄暮時、正面ハ最小限ノ

兵カヲ當テ敵ノ側背ニ機動ヲ敢行シ或ハ新鋭ノ兵力ハ

豫備隊ヲ使用ス等ヲ敵ノ側面ニ潛進セシム以テ敵ノ動搖ノ

心理的感作ニ乘ズルト共ニ收容部隊ノ自動火器鹵獲ニ

勉ミルヲ有利トス

(西)

敵陣地前ノ要點ニ進出スル際ハ特ニ敵眼ニ透敵スルヲ厭

要ナリ然ラレバ第一彈ヨリ正確ナル敵ノ山砲追撃砲ノ射撃ヲ
ヲ受ケ損害ヲ招クコトアリ

敵ノ我が軍ノ進出ヲ豫想スル陣地前ノ要點ニ對シテハ正確ニ標定
セル山砲又ハ迫撃砲ノ射撃準備ヲ完了シアリテ好機ニ乘シ第
一彈ヨリ正確ナル射撃ヲ實施シテ常トス不必要ニ敵眼
ニ暴露シ或ハ稜線上ニ徒ニ蝟集スルガ如キハ嚴ニ戒ムルヲ要ス
ハ敵ノ火力第一主義ニシテヨク地形ヲ利用シ遠距離ヨリ火力ヲ
發揚シ我戦闘力ノ消耗破碎ヲ主眼トセルモノ、如ク既ニ準備
備テタル正面ノ戦闘力ハ抵抗力大ナリ然レ共自ら求メテ白

兵ヲ交フルガ如キコトナシ

例 李塲村附近、戦闘ニテ一日中、連續迫撃砲ノ射撃ヲ

受ク、就中三回三回リ最モ猛烈ナル集中射撃ヲ蒙リタ

ルニ輕機關銃重機關銃聯隊砲ノ破壊セラレタルモノナシ

16 敵ノ嶮難ナル地形ニ依リテ我ヲ消耗戦ニ導キ且突入セラレサル

トキハ退却スルコト難ナルヲ以テ損害甚減少、手段ヲ講ズン成

ルベク速ニ主陣地前ニ迫近マシテ砲密接ナル協力ノ下ニ突撃

ヲ敢行スルガ夜暗ヲ利用シテ奇襲スルヲ可トス (西)

17 夜間ト雖モ曳光彈ヲ利用シ絶エズ射撃ヲ實施ス (西)

野之高地、戦闘如ク既ニ準備ヲ整止シタル敵陣地ニ對シテ
撃ハ特ニ諸兵種ノ戦闘力ヲ遺憾ナク統合發揮シ急襲以
テ敵ヲシテ對應ノ策ナカラシムルハ極メテ要ナリ

而シテ友軍ノ砲撃ヲ及線撃ノ時機ハ第一線部隊ノ敵前
至近距離ニ迫リ得ル好機ニシテ友軍ノ砲彈ニ依リ若干ノ
損害ヲ蒙ルヲ覺悟シテ敢テ之ヲ為サザレバ眞ニ諸兵種ノ戰
闘力ヲ統合發揮シ且敵ヲ急襲捕捉殲滅スル事ハ期難
ク徒ラニ敵ノ巧妙ナル組撃手ノ火力配備ニ致サレ地ニ長ク停
滯スル敵ヲシテ益々火力組織ヲ整止ル機會ヲ與ハ却テ損

害、大ナルヲ痛感ス

(望)

ノ錯雜ナル山嶽地帯ニ於テ夜襲ヲ以テ奪取セル陣地ヲ確保スルニ陣前ノ地形ヲ速ニ偵察シ之ニ應ズル處置ヲナスヲ要ス特ニ陣前至近距離ニ死角多キ時ニ於テ然トス然ラザレバ敵ノ近接容易ニテ手榴彈ニ依ル損害多シ例野山高地南方六〇米接線ニ於テ大戸隊ノ損害大ナル爲川崎隊ヲ以テ第一線ヨリ交代シ確保ニ任ゼシメニ前地全ク不明ニシテ漸ク三十米前方ニ死角アルヲ知リ該凹地ニ對シ擲彈筒ヲ準備シ兵五名ヲ陣前ニシカシテ警戒

我々之敵、逆襲ヲ未然ニ防止セリ

(中)

20 砲兵ノ用法ニ就テ左記事項ヲ注意スルヲ要ス

ノ近接戦闘間ハ極力之カ使用ヲ避ケ第一線歩兵ノ突入

時期ニ至リ集中的ニ火力ヲ運用スルヲ必要トス本作戰

ニ於テハ重要時期彈藥ノ不足ヲ來シタルコトアリ

2 敵ノ火點ヲ確認シテ行口一彈一火點撲滅主義ノ射撃手

ニ於テハ尙訓練ノ餘地アリ

3 飛行機ノ爆撃手アル場合爆撃手間ニ集中射撃手ヲ實施ス

スヤヤ或ハ爆撃手間ハ友軍歩兵ノ突撃手前進ヲ特ニ妨

善ムル火點ノ狙撃的射撃止。爆撃止ミタル時之ニ引
續キ集中射撃ヲ協カスベキハ研究問題ナルモ後者ヲ可

トスルガ如シ

(西)

2. 敵迫撃手砲ニ對シテハ左ノ處置ヲ可トス

ノ積極的處置

敵陣地ヲ發見シ撲滅ス

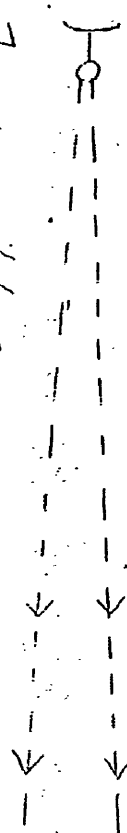
1. 各方面ヨリ其ノ方向ヲ偵知シ(最初ノニ發ト次ノニ發トニ依
リ之ヲ連ネテ其ノ方向ヲ知ル)通常ニ門射撃手ナリ)交
會法ニ依リ其ノ位置ヲ求ム

1619

敵直撃の位置

第一發

第二發



只觀測所ヲ發見ス

之消極的處置

損害ヲ減少ス

イニ階建築ノ階下ヲ利用ス

ロ高地ノ反對急斜面ニ位置ス

ハ軟土上ニ穴開ク

ニ馬ノ地隙外ニレル

水直前ノ彈痕ヲ利用ス

陣地ニ必ズ掩蓋ヲ設ク

(抄)

22 敵ハ日本語ヲ使用シ我ガ行動ヲ偵知シ或ハ欺騙ヲ企圖スル
コトアリ

我軍敵陣地ニ突入際「友軍友軍」ト日本語ヲ使用シ我
ガ突撃手ヲ躊躇セシメタルコトアリ (菅)

23 敵ヲ攻撃手シテ之ヲ撃退シ陣地ヲ占領スルモ爾後原駐地ニ
引キ揚グルトキハ再ビ舊陣地ニ進カマルヲ以テ我ガ占領セシ敵
陣地ノ要點ニ地雷(手榴彈地雷又ハ砲彈ヲ利用スルモ可トス)ヲ設
置シ一應引キ揚グル如ク欺騙行動ヲナシ敵ノ陣地ニ歸ル
ヲ待テ再ビ攻撃手セズ敵ハ地雷ヲ設置セル處ニテ抵抗スルヲ以
テ相當ノ効果アルモノト思考セラル (笠)

二 防禦ニ関スル教訓

ノ優勢ナル敵ニ已圍ミレテ苦戦セシ部隊ハ甚シク神經過放ト
ナリ萬事消極且悲觀的トナル

周村鎮整言浦隊ガ優勢ナル敵ニ包圍セシ場合ニ於テ右ノ
現象ヲ見タリ即チ諸報告悲觀的トナリ一時ハ整言浦地
ヲ放棄スル聲サハモ起リ地區司令官ノ死守ノ嚴命アリテ
始チ決心ヲ新ニセリ

如何ニ優勢ナル敵ニ包圍セラレハモ全員死守スルノ覺悟ヲ有
スバ守地ヲ敵ニ委ヌルガ如キコトナシ幹部殊ニ指揮官タルモノ

ハ修養ニ努メ以テ戦況如何ニ不利ニ陥ルモ鐵石ノ心ヲ以テ動
マルコトアルベカラズ

指揮官ノ決心ノ動搖ハ直ニ全部隊ニ影響ヲ及ボスニ至ルコ
トヲ深ク肝銘スベシ (山)

之優勢ナル敵ノ反撃ヲ受ケシ小部隊ガ一小部落ニミテ固守ス
ルハ徒ニ損害ヲ招クニシナリ

二十里舖警備隊ガ極メテ僅少ノ兵カラ以テコノ優勢ナル敵ヲ
支ヘテ交戦シタリ大ノ損害ヲ受ケツモ救援部隊ノ來着迄ニ
十里舖ヲ死守セルハ賞スルニ足ルモアルモ尚千里舖四周ヲ要

點ヲ占領シテ抵抗セバ擯奪ヲ層裁少シ得タルナルベシ千里

舖ノ如キ小部落ニ警備隊全員ガ入リ以テ防戡スルガ如キ

徒ニ敵ノ砲兵並迫撃砲ノ好餌トナルミナリ (山)

3. 部落ニ固著シテ專守防禦ニ陥リ爲ニ山撃ノ氣力ヲ失

ル警備隊アリ

周村鎮警備隊ガ終始各地ニ在ル周村鎮部落ニ固著シ專

守防禦シテ終始シテ出撃手ヲ爲ニ敵ヲ以テ四周ノ要點ヲ完

全ニ占領セシメ全ク包圍陣ヲ形成セシメタリ

周村鎮附近ノ地形ヲ觀察スルニ少シク東南北ノ三方ニハ一

軒乃至二軒ノ地點ニ好適ノ高地アリ之ニ平素ヨリ完全
ル防禦施設ヲ施シテ兵力ノ不足ヲ補フト共ニ該陣地ヲ
據點トシテ上ニ敷手セバ今回ノ如ク敵ヨリ完全包圍ヲ受クルガ
如キコトナカリシナルベシ

(一山)

么
主要幹線道路、整言備ニ任ズル整言備隊ニシテ道路附
近ノ要點ヲ放置シ爲ニ之ヲ敵ニ占領セラレ一時交通ヲ遮断
セラレタルコトアリ

例、巴公鎮、整言備隊ハ泊村附近ノ要地占領ニ著意セカリシ
爲敵ニ該地附近ヲ占領セラレ通行中ハ我自勳軍隊

襲撃せしレ一時交通ヲ遮断セラレタリ主要道路ノ
警言備ニ任ズル部隊ハ部落ニ固着スルコトナク道
路附近ノ要點ハ必ズ占領シ防禦施設ヲ完備シ置
クコトヲ要ナリ

(山)

大敵ノ山砲及迫撃手砲ノ射撃手ハ海リ難キモノアルヲ以テ狭小ナ
ル山頂等ヲ占領スル今哨陣地ニハ其重要ナルモノニ堅固
ナル掩蓋ヲ構築シ然ラザルモノハ極力地形ヲ利用シ且分散
配置スルヲ要ス

五月二十八日拂曉及同日夕刻東山嶺口ニ乘襲セル有カナ

ル敵ハ山砲及少クモ六門ヲ迫撃手砲ヲ以テ我陣地ニ釣瓶打
猛射ヲ加ハツ内迫ミ來リタニ東嶺口西北方高地分哨
及黄道頭山石山高地ノ分哨ハ迫撃手砲彈ノ多ク相當ノ損害
ヲ受ケルニ至レリ

又前地前ノ死角消滅ヲ十分ナラシメ且陣地ハ總テ天空ニ透
影セシメザル如ク著意スルヲ要ス

(山)

6
一地ヲ固守セル部隊ガ彈藥ノ品即用ニ努メ以テ長時日ノ防
禦ニ應ズルノ著意ニ缺クルモノアリ

今次作戰ニ於テ二十里鋪茲周村鎮等處備隊ガ優勢ナル敵ノ

包圍ヲ受ケテ旬日巨リテ防戦セシ際石ノ著意ニ缺クル由
アリテ常ニ彈藥ノ補給ヲ要求シ來レルハ其一例ナリ

將來斯ノ如ク一地ヲ固守スル部隊ハ嚴ニ彈藥ノ節用ニ努メ
以テ長日時ノ防禦ニ應ズルノ著意ト覺悟トシ肝要トス

ク攻撃ニ於テ損害多キ方面ニ兵力ヲ増加スルモ徒ニ損害ヲ増大

スルノミニシテ何等ノ効果ナキト同様防禦ニ於テモ一度大打撃

ヲ蒙リタル部隊ニ對シテハ其ノ後 兵力ヲ增強スルモ精神的

ニ萎縮シタルヲ以テ以前ノ如ク戦カラ復活スルコト困難ナリ

本件戦間ニ於テ周村鎮進攻部隊ニ一中隊ヲ増加セルモ尚其

行動終始消極的ナリ其ノ一例ナリ

(山)

三 彈藥使用ニ関スル教訓

山砲並歩兵砲ガ歩兵ノ攻撃ニ連繫スルコトナク無意味ニ射撃ヲ續ケ徒ニ彈藥ヲ浪費スルコトアリ

山砲並歩兵砲ハ歩兵ノ攻撃ニ密接ニ協力スル如ク射撃ノ實施ニ特ニ歩兵ノ攻撃時ニ射撃ノ最大威力ヲ發揮セザルベカラズ然ルニ歩兵ガ薄暮攻撃ヲ準備スル等ノ爲メ永ク一地ニ停止シテ實際ニ砲撃ヲ續ケルモ、アリ斯ク如キ際ノ射撃ハ敵トナリカ或ハ掩蓋銃座ノ撲滅等特別目的ヲ有スル時

ニ限ルヲ要ス

今次作戰如ク地形ノ關係上彈藥ノ補充極メテ困難ナル

場合ニ於テ特ニ彈藥ノ浪費ハ嚴ニ注意スルヲ要ス (山)

ニ

一般ニ彈藥殊ニ山砲彈 歩兵砲彈 機關銃彈 擲彈筒

彈等浪費ニ陥リ易シ各級幹部ハ彈藥ノ使用ニ就テ

一段ノ留意ヲ要ス

今次作戰ハ寡兵ヲ以テ優勢ナル敵ノ堅陣ニ據リテ頑強ニ

抵抗セルヲ好烈果敢ニ攻撃セルモノニシテ彈藥ノ消耗多クカ

ニシテ各級指揮官ハ一層彈藥ノ使用ニ

留意シ浪費ニ陥ラサルヲ要ス、殊ニ今回、如ク自動車道
路ヨリ遠ク離レテ峻峻ナル山嶽地帯ニ入り輜重ノ行動者シ
ク困難ナル地域ニ於テ作戰セル場合ニ於テ然リトス

山砲彈、如キハ要求ニ應ジ萬難ヲ排シテ補給ヲ宜實施スルヤ
幾可モナラシテ更ニ莫大ナル補給ヲ要求シ來レルコト屢々アリ
タリ

(山)

3 一作戰、携行彈藥數ハ運搬資材、關係上豊富ナラサルヲ以テ
砲彈、ミナズ小銃彈モ命令ニ依リ使用彈數ヲ制限スルヲ要ス
動モスレバ重要ナラザル目標ニ對シテモ多數、彈藥ヲ使用スル

1631

傾向アリテシテ爲緊要ナル時機ニ於テ彈藥之乏ヲ來スコトアリ

例 野山高地ノ戦闘ニ於テ敵ガ潰乱シテ敗退スル時機關銃輕

機關銃ヲ以テ猛射ヲ浴セントスルモ機關銃ハ既ニ彈藥少

ク漸弱ニシテ射テ盡シ只傍觀ノ状態トナレリ

又同攻撃時右翼隊ノ前進甚滞シ機關銃ノ射撃中

絶スルヤ敵ノ再ビ反轉シ接線ニ據リテ抵抗ヲ逞クセリ(雙)

四、幹部及兵教育ノ參考資料

ノ地形ヲ克服シテ戦闘ヲ敢行スルノ觀念ヲ更ニ向上スルノ要アリ

今次反撃作戦ハ山西省中最も峻難ナル山嶽地帯ニシテ突元

タル出獄ト千以谷地ヲ跋渉テ、戰鬪ヲ遂行セしが管波部
隊主カが常ニ地形ヲ克服シ萬難ヲ冒シテ勇猛果敢ナル作
戰ヲ敢行セルニ及シ某大隊ハ地形嶮難ノ故ヲ以テ山砲機關銃
隊等ヲ後方ニ殘置ミテ前進セシ爲爾後ノ戰鬪ニ於テ戰力ヲ
減殺シテ支障ヲ來シ或ハ大行李ヲ手裡ヨリ離脱シ此が集結
ニ多大ノ時間ヲ費シタル例アリ

(山)

ル 幹部ニシテ所命ノ日時ニ所命ノ地點ニ至ルノ觀念ニ缺クルモノアリ
例ハ六月十三日橋本大隊ハ十四日朝瓦溝村ニ發十四日申
三南谷村ニ至リ所屬聯隊長ヲ指揮シ復歸スルキ命令ニ對シ

途中坂河村附近ニ於テ敵ト遭遇シ道路ヲ變更セルト戰
闘ノ結果ニ基ク部隊ヲ集結シ時間ヲ要セシトテ理由ニ多大ノ時
間ヲ徒費シ遂ニ所命ノ日時ニ遅レ十五日朝ニ至リ南谷村ニ到
著セリ

苟モ幹部タル將校ハ如何ナル障碍ニ遭遇スルモ萬難ヲ排シ
テ所命ノ日時ニ所命ノ地點ニ至ルハノ努力カスルヲ要シ萬一不期
ノ戦闘ヲ交フル等ノ爲遲延ヲ餘儀ナクセラル場合於テハ速
ニ上級指揮官ニ連絡シ手段ニ講ズル著意ヲ必要トス (一山)
部隊ガ自己ノ位置ヲ上級指揮官ニ報告スルノ著意ニ乏シ

無線ヲ有スルニ拘ラスナ救時間自己ノ位置ヲ報告セスニテ支
隊長ノ戰鬪指揮ヲ困難ナラシメン部隊アリ殊ニ甚キハ不期
ノ戰鬪ヲ惹起シ進路ヲ変更シ刺ハ指定ノ時刻ニ所命ノ地
點ニ到着シ得サルガ如キ狀況ニ立至リテサハ尙無電ノ開設ヲ忘
リ自己ノ位置サヘモ報告セサル大隊長アリ報告事項ナキ時
ニ於テモ自己ノ位置ヲ必ス時々上級指揮官ニ報告スル如ク訓
練スルヲ要ス

(一山)

4. 指揮機關ノ訓練ニ関シ左記事項ノ向上ヲ要ス

ノ各隊ヨリ本部ニ派遣セラレアル連絡者ノ積極的的活動ヲ分ナ

ラス甚キハ所屬部隊ノ戦闘經過ニ伴フ位置行動ヲ知
ラサルモノアリ

ニ敵情ヲ常續的ニ監視スルノ善意ニ乏シ

3. 大隊以下ニ於テハ主要時期ニ於ケル指揮下部隊ノ位置ヲ
指揮官ニ報告シ其ノ戦闘指導ヲ補佐スル如ク教育シ
置テヲ要ス

(一西)

4. 指揮官ノ損傷多キ場合、戦闘力保持ヲ平素ノ訓練ニ職
込ニ上等兵以上ニ階級上級ノ指揮官ノ戦闘指揮ヲ爲シ
得ル伎倆ヲ與ヘ且兵ニ戦闘間兵一般ノ心得ニ就キ反復

教育シ置クノ要アリ

(西)

6. 砲爆撃ト交撃トガ個々ニ行ハルノ欠陥アリ如何ニ火力
裝備優劣ナル場合ト雖モ火力ノ依リ敵陣ヲ完全撲
滅スルハ不可能ナリ況ニ補給困難ナル本作戰地方ニ於テ少
數ノ彈藥ヲ最有効ニ活用シ歩砲ノ統合戦カラ發揮ス
ニアラズンバ成功得テ望ムハカラザルハ明ナリ

原則ノ教示スル所ヲ平素徹底的ニ訓練シ置クヲ要スルコト
切ナリ大隊内、重火器ト歩兵ト協同又然リ (西)

ク晉南地方ニテ作戰スル軍隊、大隊連絡班、中隊指揮班ニ對シ

六、視號通信ヲ有利ニ活用セシムル必要並ニ之ガ訓練徹底
ヲ痛感ス

(廿三)

射撃技能ノ向上ニ格段ノ刷新ヲ要スルモ、予リ本期作戰間補
充ヲ要シタルハ殆ド大砲彈藥ノミニシテ小銃彈ノ射耗極メ
テ少シ

我損害中敵ノ狙撃手ニ依ルモノ相當アリタルト比較シテ益省ヲ
要スルモノアルベシ

地形地物ノ利用、敵兵發見及敵機先ヲ制スル射撃手ニ就キ
ホニ分ク訓練ヲ重スルヲ要ス

1638

之ヲ要スルニ砲兵ノ協力ナキ場合モ較然トシテ任務ヲ遂行スル
ノ概横溢スルノ域ニ達セムルヲ要ス

(西)

9. 兵教育ニ於テ輕機関銃擲彈筒ノ特業者以外ノ若干
ノ者ニモ或程度迄輕機関銃擲彈筒ノ教育ヲ具施ス
レヲ可トス

10. 輕機関銃手擲彈筒手ノ損耗率比較的大ニ分リ(並)
砲門射撃ニ際シ表尺照準ヨリ間接照準ノ轉移方ハ更
ニ練習スルノ必要アリ

即チ表尺照準ハ極メテ簡易ナルモ天候氣象ノ關係ニ依リ

一發之射後ハ爆煙ニテ爾後ノ照準困難トナリ照準ニ長時
間ヲ要シ又射撃ノ躲避火ナレバナリ
(藤)

五、通信連絡ニ関スル觀察及教訓

ノ歩兵團ニ無線通信隊ノ必要ハ勿論ナルモ有線通信隊
亦必要ナリ

特ニ水作戰ノ如ク敵言捕地至近ノ距離ニ在リテ行動地域
少ク而モ直轄諸隊ヲ近ク連繫シテ使用シ得ル場合ニハ前
方及後方ノ連絡ニ爲其必要ヲ痛感セリ
(山)

無線通信ヲ以テ部隊ヲ指揮スル場合ニ於テハ少クモ二時間先キ

ヲ見越シテ指揮命令スルヲ要ス

今次作戦ハ殆ト無線ノミヲ以テ部隊ヲ指揮セルガ無線ヲ以テスル命令、通牒等ニハ少クモニ時間ヲ要セリ

此ノ點ヲ考慮シテ指揮セザレバ徒ニ部隊ヲシテ停止セシメ其ノ行動ヲ鈍重ナラシムルニ至ルベシ

(一山)

3. 司令部、本部等ノ移動時期ハ無線ノ送受信ノ最少キ後半
半夜ヲ選ブラ可トス

今次作戦ノ経験ニ依ルニ無線ノ送受信ノ最少キ時期ハ後半夜
二時頃ヨリ六時頃迄トス此ノ時期ヲ選ビテ司令部、本部等ヲ移

動スルヲ可トス

又此時期ニ先ヅ情報所ト通信機關トシテ先行セシムルニ

業ナリ

(山)

4. 空界ノ偵察ハ常ニ實施シ直ニ作戰ニ利用シ得ル如ク準

備スルヲ要ス

本作戰直前徹底的ニ空界ノ偵察ヲナシ使用周波數ヲ選

定セテ結果混信少ク良好ナル通信ヲ實施シ得ナリ(松)

6. 無線通信ニ於テ今回ノ作戰地域ハ標高一ニ。乃至一三〇〇米

ノ山嶽地帯ナルモ通信ニ支障ナク格是距離ノ通信ニ支障

正確信ヲ得タリ

6. 無線通信所附近ニ砲彈落達セル時ハ必ズ眞空管不良トナルヲ以テ無線通信所ハ砲彈ニ依ル振動ヲ器材ニ及ボサザル始クスルヲ要ス

(望)

ク器材ノ整備ニ就テ

ハ作戰前教育及事前監督指導ノ徹底ニヨリ本作戰間器材ノ故障殆ブナカリシモ左ノ事項ヲ体験セリ

即チ野重無線分隊ニテ空中線ガ被覆中ニテ断線シテ充分且近距離ニハ發信良好ナルカノ如ク見ユルモ

遠距離ニハ感度不良アリ

此種故障ハ遠距離通信ヲ實施後始メテ故障ノ現象ヲ表スヲ以テ古キ器材ハ特に注意ヲ要ス

之作戰期日短時日上豫定セラルル場合ニ於テモ乾電池ハ作

戰豫定日數外尙十日間分ノ豫備ヲ携行セシメ尙部

隊本部於テ隨時補充シ得ル如ク準備シアルヲ要ス

本作戰ノ如キ豫定ニ変更アル戰場ノ常ニシテ絶えず行動

スル第一線各支隊ニ配屬セラレタル分隊ニ於テ乾電池ノ不足

セル場合之ガ補給困難ニテ幸ヒ補給ノ好機アルモ部隊

本部ニ豫備品ナキ場合ハ好機ヲ逸スル虞アレバナリ

3. 戦闘司令部、通信所ハ日十八號乾電池以外ノ大型乾電池

(日號日二號)ヲ使用セシムル如クスルヲ要ス

日十八號ハ三號機ノ制式品ニシテ之ヲ使用セシム得レバ理想的ナ

ルモ近時十八號、補給通信部隊ノ要求ニ遠キモアリ

而モ第一線端未分隊ニ於テ日十八號ニ依ラザラフ得ズ

又戦闘司令部通信所ニ於テハ移動頻繁ナラザルト、常時受

信ヲ支事多キヲ以テ最近日十八號ニ代リテ補給セラレタル容

量大ナル大型乾電池ヲ得策トス

4 應用電池(百十八號以外、電池)ヲ使用スル際ニ、電池接續紐ヲ豫メ製作携行スレバ便ナリ

百十八號ノ不足ニ伴ヒ應用電池即チ百一號、二號等ノ電池ヲ使用スル機會多シ其ノ都度オノオノニ線ヲ使用スルハ接續繁雜ニテ點檢ニ不便短絡等ノ恐レアリ尚、線ノ不經濟トモナルヲ以テ將來電池接續紐ヲ製作携行スルヲ要ス

(松)

8 本作戰間無線機ノ接續紐断線一ノ所配線、断線ニテ所部品ノ損耗一ノ所ナルニ鑑ミ無線工具必要ヲ痛感ス(望)

9
無線分隊ハ暗號班ト密接ナル連絡ヲ爲同行同指セシムルヲ
可トス

本作戦間西田部隊ニ配屬セラレタル無線分隊ハ暗號班ト
同行同指セシメタル結果連絡密ニシテ死節時ナク且機宜
ニ通セル通信ヲ實施スルヲ得タリ (松)

10
無線分隊支隊本部ヨリ遅ル場合連絡兵ヲ本部同
行セシムルヲ要ス

無線分隊ハ其任務上支隊本部ヨリ遅ル場合アルモ此
ノ際連絡兵ヲ本部同行セシメ進路ノ標識通信所位置

ノ選定ヲナサシムルハ本部ニ道及リ際又道及後ニ於ケル通信
所ノ開設ニテリ便ナリ (松)

ノ通信手特ニ分隊長一番ノ通信隊全部ノ通信系統ニ諸
元ヲ詳知シアルコト必要ナリ然ラバ系統ノ変更ニ當リ頭
ノ轉換澤々適切ナル處置ヲナスコト困難ナリ (松)

ノ無線手ノ技術的教育ニ就テ

本作戦間第一線大隊配屬ノ五號無線機ノ「グリット」分壓
器焼却セルヲ探究シ得ガレ爲約十二時間通信不能ト
ナリタリ機會ヲ捉メテ技術的教育ヲ眞實施スル外各部

隊ノ電工兵ニ對シテハ師團等ニ於テ集合教育ヲ爲スヲ可

トス

(笠)

13. 時計ノ規整ハ無線分隊間ハ概ネ良好ナルモ暗號班其

ノ他ノ規整ヲ要スルヲ以テ毎日時報ヲ行フ事ハ必要ナリ(松)

14. 完全ニ翻譯ニ得ザル電文ニ於テモ暗號班ノ判断依

再電ヲ要求スル事ナク一應指揮官ニ提言スルヲ要ス

暗號手ニ判断ニ得ザルモ指揮官ノ識量ヲ以テセバ電ノ

大意ヲ判断ニ得ル事アリ

(松)

15. 第一線中隊ト支援射撃部隊ト間ニ記號連絡ヲ爲ス

旗ヲ使用スルヲ可トス

突撃發砲ノ好機アルモ射撃中ニ又ハ射程延伸ナキ爲

突撃手操ヲ失シ突撃セシ時ハ既ニ敵ハ遠ク敗走シアルコト屢々

ナリ

例、野山西才廟高地ニ進ム道前一面元高地敵道撃手

砲ニ對シテハ大尉ハ焦慮シテ砲兵射撃ヲ額ハト制

壓射撃ヲ要求セシ道聯絡ノ方法ナク彈雨ヲ冒シテ前

進セリ

(四)

六 行李輜重ニ關スル教訓

ノ 策 謀 部 隊 必 ズ 行 李 及 設 列 考 考 ハ 之 相 當 ス ル 給
養 補 給 機 関 ヲ 装 備 ス ル 事 緊 要 ナ リ 然 レバ 鞫 重 入
之 等 行 李 及 設 列 等 ノ 任 務 ヲ 兼 務 セザル ベカ ラザルニ 至
リ 鞫 重 入 來 ノ 任 務 ヲ 拘 束 シ 大 局 ヲ 失 シ 放 膽 ナ ン 作 戦 ヲ 眞
施 シ 得 ザル 事 ア ル ヲ

例 第 一 次 及 第 二 次 作 戦 ニ 於 テ 此 等 支 隊 ハ 何 等 行 李

若 々 之 ニ 相 當 ス ル 給 養 補 給 機 関 ヲ 装 備 シ テ ラザル タ

配 屬 鞫 重 隊 ハ 常 ニ 行 李 及 鞫 重 ノ 任 務 ヲ 兼 務 ス ル

止 ム ナキニ 至 リ 其 ノ 行 動 範 圍 每 日 ニ 尙 大 ニ シ テ 殆 ド 不

眠不休爲ニ多敷ノ鞍傷馬ヲシラヌニ至リシノミナラズ

第一線部隊ニ於テモ給養ノ圓滑ヲ缺キシ事数度ナラズ

故ニ第三次作戰ニ在リテハ行李ノ編成ヲ要求セシ結

果其ノ末期ニ於テ辛シテ作戰ノ要求ニ應ジ得タリ

依而將來ニ於テハ如何ナル場合ニ於テモ稍々長期ニ亘ル

作戰行動ニ在リテハ行李ノ給養裝備ヲ携行スルヲ

要ス

(併)

2. 配屬輜重ノ指揮官ハ爾後ニ於ルニ交付補充等ヲ豫察

シ成ルベク速ニ道路ノ偵察其他ノ諸準備ヲ實施シ置クコ

ト所要ナリ夜間行動ヲ豫期スル場合ニ於テ特ニ然リ

例、本作戰間ハ夜半不意ニシテ發命令ヲ受領シ或ハ未

知ノ地形ヲ單獨ニ行動スル場合比較的多ク道路

ヲ誤リタルコト敷度アリ

(伊)

ハ配屬輜重隊長ハ各部隊ノ給養入馬数ヲ詳知シテ

要ス之補給糧秣算定ノ基準トナルヲ以テナリ

又各部隊ニ適時給養入馬数ヲ通報スル若ク意アルヲ

要ス

(伊)

ハ第一線部隊糧秣彈藥等ハ補充ヲ受ケントスル時ニハ必ズ

種類日時場所数量等ヲ明示スルヲ要ス

例 本作戰ニ於テハ諸種ノ原因アリタルモ到ル處ニ於テ齟齬

ヲ來シ輜重ノ徒勞カセシメテ屢々ナリ

東鳳頭ニ於ケル彈藥ノ交付ノ如キ若干ノ山砲彈ヲ交

付セシメテ殆ド残存ノ砲口積載ニ歸リタリ又某歩

兵部隊ハ必要以外ニ彈藥ヲ受領シ其ノ處置ニ劣弱セ

ルモノアリ

(伊)

ト其ノ他

ノ野戰重砲兵ノ射撃効果ハ甚大ナルモノナリ

今次作戰ニ於テ野戰重砲兵中隊ハ工兵隊、敵身の協力ニ依リ險難ナル地形ヲ突破シテ戰場ニ進出シ敵堅陣ニ對シ探メテ有効ナル射撃ヲ實施シ以テ屢々歩兵突撃ノ好機ヲ作レリ

飛行機ノ爆撃ハ爆音ニヨリテ事前ニ敵ヲシテ準備ヨクハ餘裕ヲ與ヘ又上空ヨリ飛去リタル後ハ敵ニ安堵ヲ與フルモ砲兵ハ不意ニ意外ナル地點ヨリ射撃シ敵ノ不意ニ乘ズルヲ得此ノ點爆撃ニ比シ有効ナリ

特ニ高會村附近並東庄附近敵陣地ニ對スル重砲ノ射撃ハ

1655

全ク敵ノ不意ニ乘リタルモノニシテ從テ射撃ノ効果甚大ナルモアリ

タリ

(山)

1656

又飛行機ノ爆撃ハ蝟集シテ攻撃シ來ル敵ニ對シ効果甚大ナリ
今次作戰ニ於ケル山口飛行隊ノ爆撃ハ效果甚大ナルモアリ
殊ニ五月二十三、二十四兩日ニ於ケル澤州周邊ニ十里鋪、周
村鎮附近ノ蝟集ル敵ニ對スル爆撃ノ效果ハ偉大ナルモノヤ
リテ地上部隊ノ戦闘ニ貢獻スルトコト頗ル多カリキ
但シ如何ニ爆撃ノ效果大ナリト雖モ敵ヲ撃退スルハ步兵ノ
突撃ニアルコトヲ肝銘セリ

(山)

3. 戦線標示就テ

飛行機ニ對スル爆撃ヲ要求ニ於テ砲彈併用ノ方法ハ
考ヲ要スル點アリ

即チ敵ガ火砲ヲ有セザル時ハ可ナルモ本作戦地方ノ敵ハ
山砲道撃砲等我ト同ジ火砲ヲ有シアルヲ以テ砲撃ノ位
置即チ敵ト速断スルハ危險ナリ

3. 發煙筒ハ中隊以下ニ於テ使用シ大隊本部以上ニテ用ヒ
レ可キ即チ戦線錯綜セル場合前後左右ニテ煙揚ル時
ハ遂ニ第一線ノ位置不明ナルニ至ルベシ

1657

五、國旗使用ノ標示ニ於テ砲兵ニ對スル場合ト飛行機ニ對スル場合ト判然區別シ教育シ置クノ要アリ

六、砲兵ニ對スル標示ニ日ノ丸ノ外他ノ色彩ノ旗ヲ添加スルヲ可トス

七、飛行機ノ行動

撃撃終了後ト雖モ敵軍上空ヲ飛翔シ更ニ爆撃スルガ如キ氣勢ヲ持續スルヲ有利トス有軍地上部隊ニ對シテ自身振リニ依リ其ノ區別ヲ通報スル可ナリ

八、自衛用迫撃砲ノ搭載位置ニ就テ

六月四日浪井村附近ニ於ケル戦闘ニ際シ迫撃砲ハ當初中
隊後尾ニ搭載シヤリシ爲射撃迄ニ相當ノ時間ヲ要シ機ヲ
逸シタル感アリ

爾後中隊長ノ近クニ位置セシメ適時有効ナル威力ヲ發揮シ
得タリ

(洋)

地雷埋没豫想地域通過ノ要領

ノ要領

地雷埋没地域ハ概ネ一才断崖ニシテ車輛ノ轉覆シ易キ地
點或ハ道路ノ屈曲点又ハ登降急坂路ニシテ且土質柔

1659

軟ナル地點ヲ選定スルモノ如シ

而シテ點々至ル處ニ埋設セズシテ要點ニ集中スルモノ如シ

附近ヨリ射撃ニ依ル掩護或ハ監視ノ關係アルゾシ

一ヶ所ニ數十箇ノ地雷埋設シタルヨリハ廣地域ニ亘リ一個宛

埋設シタル方、我ニ與ル精神的發育、感大ナルモノアリタルベキモ

一ヶ所ニ埋設セラレタルハ我ニ幸福ト云フノ外ナシ

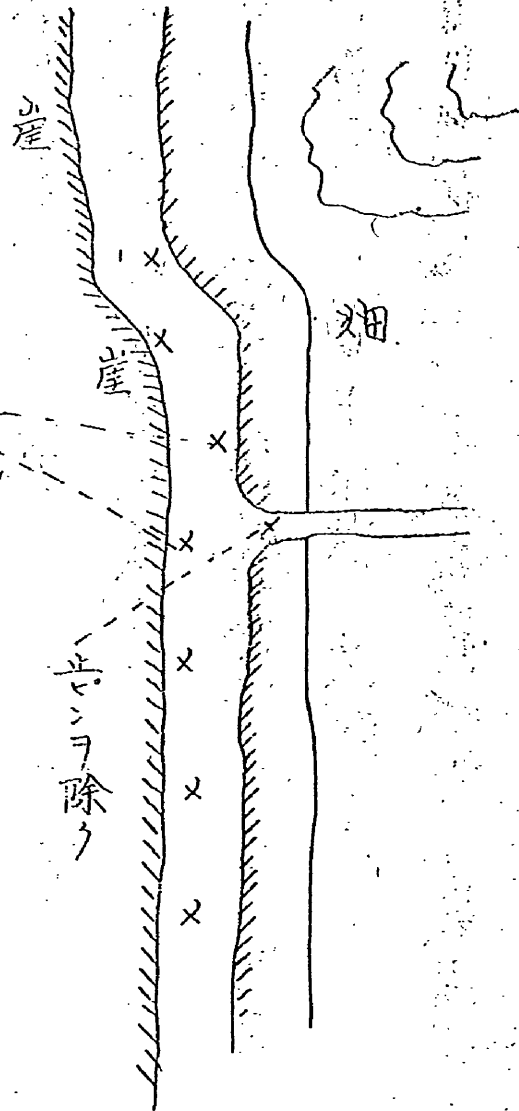
天神村附近(馬村鎮東方)地雷埋設狀況左ノ如シ

左記

3 地雷發見の動機

五月二十日周村鎮ニ向フ途中天神村ヲ自動偵車為三
十輛通過セシ頃稍澤レタル一輛地雷ニ觸レ大破ス其ノ際爆

道路ノ地雷ニ信管ニセンアリテ重量大ナラ
ザレハ壓下セズ



1661

風依リ約一米離レル路上ニ他信管一現ルニ依テ中隊ハ歸
路徹底的ニ搜索ス

地雷地域通過ノ爲ノ行軍要領(參考)

尖兵車輛ノ架柱上ニ米俵又ハ砂囊ヲ一列ニ敷キ詰縛着シ
全員架柱上ニ塔乗シテ前進スラ可トス

ク前軀低キ駄馬ノ鞍傷豫防

前軀低キ駄馬ニ對シ鞍馬具ノ袴革ヲ使用シテ鞍足
位置ニ在リテ四羈甲擦傷ヲ豫防シ得タリ (一併)

ハ馬匹鞍傷豫防ノタメ各馬ニ防水布ヲ裝備スルコト必要

ナリ

山嶽地帯ニ於テ活動スル馱馬ノ鞍傷ノ發生多キニ降雨際
ニテハ其發生特ニ増大スルヲ以テ之ガ豫防止防水布ヲ必

要トス

(菅)

9. 各大隊毎ニ作業班ヲ編成シ以テ井泉ノ偵察簡單ナル
給水所ノ施設等ヲ行ハシムルハ給水不便ナル地方ニ活動ス

ル軍隊ニ緊要ナリ

天井関南方地區ニ於テハ特ニ井泉ニ乏シク馱馬ノ水飼

實施困難ナリ

(菅)

10 第一線部隊ハ梅干ヲ携行スルヲ要ス

第一線部隊ハ状況上ニ食分ヲ飯盒ニ依リ携行スル事

ハ普通ニシテ此ト梅干トヲ入レ置クハ暑氣ニ依ル飯ノ

腐敗ヲ防止ルヲ得

(松)

1664